

各位

2025年5月2日

原爆文学研究会事務局  
〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1  
福岡大学人文学部 中野和典研究室内  
tel:092-871-6631 (代表) /e-mail:nakanok@fukuoka-u.ac.jp

## 第75回 原爆文学研究会のご案内

時下益々清栄のことと存じます。第75回原爆文学研究会を下記の要領で開催いたします。今回は1日目を対面形式、2日目を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催いたします(ただしオンラインでのご参加は会員のみに限らせていただきます)。みなさまには、ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

参加をご希望の方は右下の参加申込フォームからお申し込みください。

### 記

- 日時 2025年8月9日(土) 14:00より 10日(日) 9:40より
- 会場 広島大学東千田キャンパス・東千田未来創生センターM303講義室(広島市中区東千田町1-1-89)  
※東広島市の「東広島キャンパス」ではなく、広島市の「東千田キャンパス」ですのでご注意ください。
- プログラム【8月9日(土)】 共催 エコクリティシズム研究学会、JSPS科研費24K00057  
14:00 特別シンポジウム「アート・コレクティブ「爆心へ/To Hypocenter」」  
新井 卓・川久保 ジョイ・小林 エリカ・竹田 信平・三上 真理子・松永 京子(司会)  
17:00 閉会の辞 中村 善雄  
17:10 1日目終了  
18:00 懇親会

- プログラム【8月10日(日)】  
9:40 開会・自己紹介(開場は9:00)  
10:00 研究発表 教科書と「原爆文学」V——峠三吉「仮帯所にて」を中心に 中野 和典  
11:20 休憩(10分)  
11:30 研究発表 朽木祥「たずねびと」の難しさ——原爆文学教材の実践を通して 勝倉 明以  
12:50 休憩(50分)  
13:40 パネル発表「終末論と核表象」  
安部公房『第四間氷期』に潜在する核表象——スプートニクショックと終末への想像力 岩本 知恵  
「核の時代」の小劇場演劇——「小劇場ブーム」における終末論的表象 加島 正浩  
『ピカドン』にみられる終末論と核表象——絵本・アニメーション・絵本のメディア循環から考える 林 緑子

- 15:40 事務局より
- 15:50 2日目終了

※ 1日目の午後は「エコクリティシズム研究学会」及び「JSPS科研費24K00057」との共催です。

※ 1日目の午前は同じ会場で「第37回エコクリティシズム研究学会」が開催されます。エコクリティシズム研究学会の会員でなくても参加できますが、その場合は参加費500円が必要になります。プログラムは次の通りです。

<https://fukuoka-u.box.com/shared/static/391v2qepph1jkerhcj5vuzo3z6hapjru.pdf>

### 【8月10日午後】 パネル発表「終末論と核表象」趣意文

2025年4月13日ナオミ・クラインは、現トランプ政権とテクノリバタリアンの親和性を論じた長文の論考を『ガーディアン紙』に寄稿した(The rise of end times fascism)。そこではテクノ右派、加速主義者、宗教右派が、終末という物語を共有していることが指摘されている。彼らはSF小説などが流布してきた終末の物語を現実とするために、気候変動、パンデミック、AIの急速な技術加速を歓迎するファシズム的な立場を取っている。そこでは終末論的加速主義を批判するキム・スタンリー・ロビンソンの火星三部作などの表象も、彼らにとっては望ましい未来として受容されているとナオミ・クラインは指摘する。終末に関わる諸表象は考察すべき対象へと再びせりあがってきたといえるだろう。

本パネルでは現在の終末論的表象の政治利用への考察を深めるために、かつて冷戦と核戦争を背景に日本で展開された終末論に関する表象を分析の俎上にあげる。核戦争から終末を到来させる要因が最新の科学技術や気候変動などに移り変わるなかで検証されていない課題は何であるのか。また日本という文脈で問い直す必要性がどこにあるのかを考察するとともに、終末論的表象が飛び交うなかで新たに原爆を表象する意義がどこにあるのかを、小説・戯曲・アニメーションという三種のジャンルを通じた分析で考察したい。

## 各プログラムへの参加申込フォーム

- ・8月 9日(土) 午前の申込 事前の申込は必要ありません。  
※エコクリティシズム研究学会の会員でない場合は、参加費500円が必要です
- ・8月 9日(土) 午後の申込 <https://forms.gle/Qjr4BujAnjS61GLA6> (申込締切7月31日)  
※参加無料
- ・8月 9日(土) 懇親会の申込 <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdRAuwDBo6SAPwcZBCvuCMou0hR4w8Cv9anl4ymTcNADf4Ixw/viewform> (申込締切5月7日)  
※参加費: 学生3000~3500円/一般6500~7000円
- ・8月10日(日) の申込 <https://forms.gle/HA6vZ5QhqiVScWjt5> (申込締切7月31日)  
※参加無料

### 会場のご案内

広島大学東千田キャンパス(広島市中区東千田町1-1-89)  
東千田未来創生センター3階・M303講義室

※駐車場を使用される方は必ず事前に許可が必要となります。2週間前までに松永までご連絡ください。  
kyokomatsunaga \* mac.com  
(\*を@に置き替えて送信してください)

※広島大学東千田キャンパスへのアクセス

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/sendai>



## 2025 年度 特別シンポジウム

アート・コレクティブ「爆心へ／To Hypocenter」

Art Collective, "Toward the Bakushin/ Hypocenter"

(共催：エコクリティシズム研究学会、原爆文学研究会、JSPS 科研費 24K00057)

登壇者：新井 卓（アーティスト）

川久保 ジョイ（アーティスト／サザンプトン・ソレント大学大学院）

小林 エリカ（作家、アーティスト）

竹田 信平（アーティスト）

三上 真理子（キュレーター／アートプロジェクトマネージャー）

司会：松永 京子（広島大学）

### 要旨

—爆心地の話をつたえてくれる人は、誰もいません。 丸木位里・俊『ピカドン』

トリニティでの原爆実験、その後続く広島、長崎への原爆投下から 80 年を迎える 2025 年。日本、ドイツ、アメリカ、イギリス、国内外で活動するアーティスト、キュレーターが中心となり、プロジェクト「爆心へ/To Hypocenter」を始めました。

私たちは、それぞれの方法やプロセスで、15 年あまりの年月を、広島、長崎、そして、福島、南米、マーシャル諸島など、核問題をはじめ、植民地主義やスローバイオレンスの記憶に関わる場所やひとりひとりの記憶に対峙しながら作品制作や展示に関わってきました。いま、私たちは相互に意見を交換しながら協調し、アートを通じ、「爆心へ」—目には見えない、声が聞こえない、その場所へ—向かおうと試みながら、新たな形で歴史と記憶を継承する方法を模索しています。

特別シンポジウムでは、各メンバーによる発表、コレクティブとしての活動の紹介とディスカッション、そして参加者と共に「爆心へ」想像力を膨らますワークショップを行う予定です。